



岡山県知事
石井 正弘

世界とともに発展する共生と貢献の 岡山県を目指して

岡山県は、南は瀬戸内海に面し、北は中国山地に抱かれた豊かな自然と、「晴れの国」と呼ばれる温暖で過ごしやすい気候に恵まれた暮らしやすく魅力ある地域です。歴史的には、吉備真備が遣唐使として大陸に渡り、朝鮮通信使が備前国の牛窓の地を訪れるなど、国際交流の盛んな地域であり、現在でも岡山空港とソウル、上海、グアム、北京・大連とダイレクトに結ぶ直行便があり、地域国際化を推進する基盤にも恵まれています。

本県では、このような基盤を生かし、地域国際化に積極的に取り組んでいますが、特に国際貢献の分野は、本県は、特定非営利活動法人AMDAなどNGO・NPOの活動が活発であり、また新見市（旧哲多町）に公設国際貢献大学校が設立されるなど、盛んな地域です。県におきましても、平成15年に国際救援物資備蓄センターを開設し、NGOなどとの連携のもと、平成15年2月のイラン大地震をはじめ、今年2月のニュージーランド大地震など、世界各地域での災害に際し、いち早く救援物資を提供してきました。また、平成16年3月には、都道府県で全国初の条例として「岡山県国際貢献活動の推進に関する条例」を制定し、この条例に基づき、産学官民の法人や団体が連携及び協働する「岡山発国際貢献推進協議会」によるNGOなどへの支援ほか、毎年10月を「おかやま国際貢献月間」と定め、さまざまな普及広報活動を行うとともに、海外からの技術研修員の受け入れや県内の専門家の海外派遣を行う「ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業」を実施するなど、本県の特性を生かした国際貢献活動を積極的に推進しています。

そして、国際化の新たな一歩として、今年3月に「新おかやま国際化戦略プラン」を策定しました。このプランでは、国際貢献のほか、経済国際化、多文化共生、国際交流、さらにはグローバル人材の育成の5つの戦略を掲げ、国際化に関する施策を総合的かつ計画的に推進することとしています。本プランの目標である「世界とともに発展する共生と貢献の岡山県づくり」を目指し、県民、NGO・NPO等と一体となって、国際化に向けたさらなる取り組みを進めてまいります。